



Title	センター教授着任の弁
Author(s)	山崎, 耕一
Citation	一橋大学社会科学古典資料センター年報, 21: 49-49
Issue Date	2001-03-31
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	<a href="http://doi.org/10.15057/5418">http://doi.org/10.15057/5418</a>
Right	

## センター教授着任の弁

山 崎 耕 一  
YAMAZAKI Kōichi

2000年4月1日付で、渡会勝義先生の後任として、社会科学古典資料センター教授に着任いたしました。かつて図書館がフランクリン文庫を購入した時には、私は大学院生で、「整理の手伝い」という名目で、届いたばかりのフランクリン文庫の主にフランス関係の資料に触れさせていただきました。その後、パリ留学から戻ると古典資料センターが出来上がり、相変わらず院生だった私も、職員の方々と知り合いになっていたこともあって、気安く頻繁に利用いたしました。じきに、ある私立大学に職を得たので、センターからも足が遠のきましたが、このたび今度は教授として、再びセンターと関わりを持つことになり、感慨深いものがあります。

そのようなわけで、私の中には古典資料センターは「新しくてきれい」というイメージが残っていたのですが、久しぶりに足を踏み入れ、専任教授として見てみると、やはり建物の老朽化はあちこち目につきます。とりわけ、屋上の防水が心もとなくなってきたのが気掛かりです。中に保存しているのは世界的に貴重な書籍・資料であって、もし漏水で破損でもすることがあったら、様々な意味で取り返しのつかない損失です。早急に手を打たねばならないでしょう。

また、近年はIT化に伴って、新しい保存や利用の手段が増え、センターもそれに対応する必要が生じています。それは単に新しいメディアを取り入れるだけでなく、これまである古典資料の保存と利用の仕方をも考え直す作業を伴います。それをこなし、センターを拡充していくには、スタッフを充実させることも必要でしょう。

「センター教授に」という話をいただいた時には、書庫にある豊富な資料を思いのままに読んでいけばいいのだと気楽に考えたのですが、着任してみると、果たさねばならない課題は色々あるようです。これまでの先生方の御努力のあとを受けて、「一橋が世界に誇る古典センター」をより発展させるべく、微力ながら努めていきたいと思っています。

(一橋大学社会科学古典資料センター教授)